

新興国の経済成長と年齢別人口構成の変化について

◆国の経済成長と年齢別人口構成の変化には、密接な関係があると思われます。

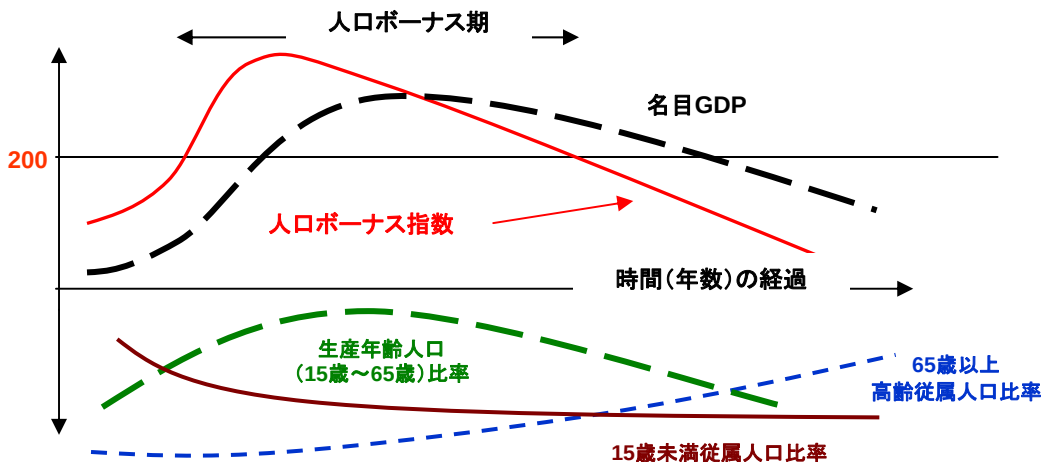
◆年齢別人口構成の変化を把握する上で役に立つ指標に「人口ボーナス指数」があります。人口ボーナス指数(※1)は、生産年齢人口(15歳～65歳)を従属人口(年少者や高齢者など)で割った指数です。前出従属人口に対して、労働力となる生産年齢人口の割合が高まる(人口ボーナス指数の上昇)ことで、経済活動が活発になると考えられます。この指数が200以上の時期を「人口ボーナス期」とよび、その国の経済成長が期待できる時期です(図表1)。

(※1: 人口ボーナス指数=生産年齢人口/従属人口×100)

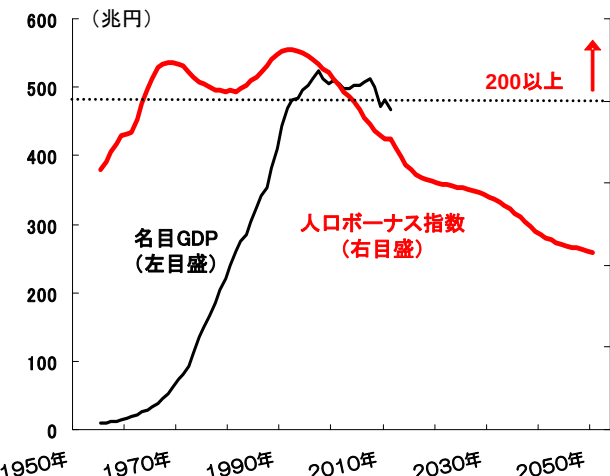
◆日本も戦後期には新興国の状態でしたが、その後、高度経済成長期を経験し安定経済成長期となり、その過程で日本の人口ボーナス指数は、1964年から2004年までは200を超えていました(図表2)。各国の状況が違うため、それぞれの人口ボーナス期は異なりますが、日本の事例は、これからの新興国の経済成長を占う上で参考になると考えられます。

◆新興国の人口ボーナス指数は、インドネシアはすでに人口ボーナス期入りし2025年まで続くと予想され、ブラジル・インド・マレーシアは2025年から、フィリピンは2050年からそれぞれ人口ボーナス期入りするものとみられます(図表3)。人口ボーナス指数の推移をみると、これらの国々は、今後の経済成長が期待できる国といえるかもしれません。

【図表1: 国の年齢別人口構成の変化、人口ボーナス指数と経済成長について】
(イメージ図)



【図表2: 日本の名目GDPと人口ボーナス指数の推移】
(予測含む)



【図表3: 各国の人口ボーナス指数の推移】
(予測含む)

	1980年	1990年	2000年	2005年	2010年	2025年	2050年
日本	207	229	214	198	179	147	104
米国	197	194	195	202	204	173	161
英国	179	188	187	194	194	170	148
ドイツ	193	223	213	202	194	167	128
中国	148	201	214	241	257	216	156
ロシア	213	204	229	246	264	211	158
インド	133	140	153	163	178	208	206
ブラジル	137	152	182	194	199	205	170
マレーシア	133	143	168	180	194	210	189
インドネシア	128	153	184	195	206	231	178
フィリピン	116	127	142	150	159	192	207

出所: 図表1,2,3は国連、総務省、国立社会保障・人口問題研究所のデータよりニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。〈審査確認番号H24-TB66〉